

2年2組 算数科学習指導案

令和4年9月30日(金) 2時間目
 場所：2年2組 男子15・女子20 計35名
 授業者：

(1)ねらい いろいろな形から三角形と四角形を選ぶ活動を通して、何本の直線に囲まれているのかという図形の定義に着目して考え、定義に基づいて三角形か四角形かを弁別し、そのわけを説明することができる。

(2)評価規準 図形の定義に基づいて三角形か四角形かを弁別し、そのわけを説明している。【思考・判断・表現】

(3)評価方法 交流での発言・プリントへの書き込み・練習問題の正解率

1 単元名 三角形と四角形

2 指導の立場

(1) 教材観
 これまで児童は、「さんかく」「しかく」という言葉を使って、「三角形」や「四角形」とこれと「似て非なる形」とを総称して捉えてきている。本単元では、「さんかく」や「しかく」には「3本や4本の直線だけできちんと囲まれた形」と、かどが丸かったり、きちんと囲まれていなかったりする「似ているが、そうでない形」があることに気づかせ、この両者を区別する必要があることに気づかせ、この両者を区別する必要があることを理解させる。そして、図形を辺や頂点、かどの形に着目して見る資質・能力を養いたい。それぞれの図形がどんな図形かを判断する際には、定義をもとにして判断することができるように指導する。また、そのことを簡潔に説明できるようにすることも大事に扱う。感覚的に捉えていたものごとを、約束(定義)に基づいて判断するという数学的な見方・考え方を育てていく。

(2) 児童観
 本学級(男子15名 女子20名、計35名)は、[A 数と計算]領域では、自信をもって取組める児童が多い。しかし、「自分の考えを説明する」ことには自信がなく、一部の決まった児童による挙手発言で授業が進んでしまう。図形の弁別においては、図形の約束(定義)をしっかり抑え、問題の解決の糸口としたい。また、話形を手助けとして、誰もが「わけを説明できる」ことを目指していきたい。

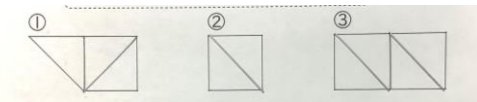
(3) 指導観

1 □にあてはまることを書きましょう。

① まっすぐな線を□といいます。(直線)
 正解 29人 不正解 6人


② △の形の名前は、□です。(三角)
 正解 29人 不正解 6人

2 ㄥをつかって形をつくりました。何枚つかったかわかるように線をかきましょう。



正解 27人 正解 28人 正解 23人
 不正解 8人 不正解 7人 不正解 12人

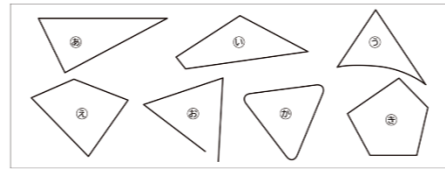
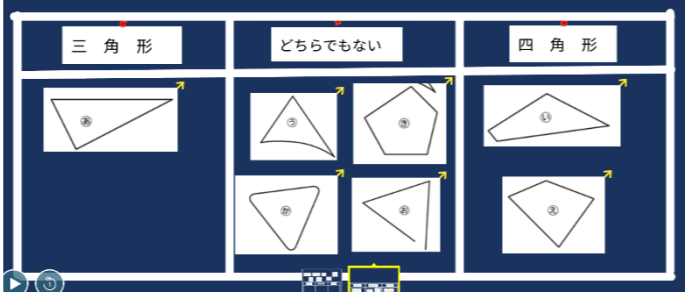
3 ・と・を線でつないで、さんかくとしかくを1こずつかきましょう。



三角形 正解 30人 不正解 5人
 四角形 正解 30人 不正解 5人

レディネステストの結果から、20人の児童が全問正解で、感覚的に図形が分かる児童が多い学級であることがわかった。しかし、不正解の児童は、複数カ所の間違いがあり、図形への苦手意識があることがわかった。今まで感覚的に捉えてきたことを三角形や四角形の約束(定義)を大事にして、図形の形を捉えることができるようにしていきたい。また、それを自分の言葉で説明できるようにしていきたい。

3 本時の展開 (3 / 12時)

	学習内容および学習活動	指導・援助、支援
つかむ 5分	<p>1 問題場面を把握し、学習課題をたてる。(5分)</p> <p>三角形や四角形をえらびましょう。</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・三角形は3本の直線で囲まれた形、四角形は4本の直線で囲まれた形。 ・直線は、まっすぐな線のこと。 <p>課題 えらんだわけをせつめいしよう。</p> <p>2 学習課題について、自分で考える。(8分)</p> <p><ロイロノートに自分の考えを書き込む></p> <ul style="list-style-type: none"> ・三角形、四角形を選び、そのわけを話す。 ・三角形、四角形でないものについても、どうしてそう考えるのかを話す。 ・どちらでもない形には、どこに着目したのか印をつける。 	<p>1 大型モニターで問題を大きく映し、いろいろな図形から三角形や四角形を弁別することを示す。</p> <p>1 既習の定義を復習する。(三角形、四角形、直線)</p> <p>1 三角形、四角形に分別できない形もあることに気づかせ確認する。</p> <p>2 ラビちゃんの言葉から選んだ根拠を説明するために、「直線」に着目して考えるとよいことを確認する。</p> <p>2 弁別ができた児童は、ロイロノートの提出箱に入れるよう指示する。</p> <p>2 図形の弁別ができず、悩んでいる児童をロイロノートの提出の状況を見て確認し、個別支援をする。</p> <p>2 ゆいの考え方から、先に結論を話し、後でそのわけを説明すると分かりやすいことを確認し、話形の見本を掲示しておく。</p> <p>2 図形の弁別が完了した児童は、繰り返しわけの説明の練習をする。</p> <p>3 考えが途中の児童もわかるころまでわけをつけて話す。迷っていることがあれば、ペアの子に質問し話し合うよう声かけをする。</p> <p>4 大型モニターで説明する図形を示し、全体で共有しながら進める。</p> <p>4 自分の考えと仲間の考えを比べながら聞いているか確かめる。三角形、四角形の定義の他に、へんや頂点の数に着目する児童の考えも取り上げる。</p> <p>4 三角形や四角形でないものも定義に照らして確認し理解を深める。</p> <p>5 見た目ではなく定義をもとに弁別してわけを説明したことを価値づける。</p> <p>6 練習問題ができた児童は、できた児童同士で図形の弁別の確認だけでなく、そのわけの説明をお互いにするよう声かけをする。</p> <p>7 学習のふり返りの視点を課題に即して明確に伝える。また、文章を書くことに個人差が大きいので、「なぜわかったか」は、書ける児童は書くように指示する。</p> <p>7 ふり返りを書いている児童の言葉を紹介し、目指す自己評価の手本を全体に知らせる。</p>
深める 13分	<p>3 少人数交流で、自分の考えを深める。(ペア交流：5分)</p> <p><言葉で説明する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手にロイロノートを見せ、着目した点を指を指しながらわけを説明する。 ・㊦は、三角形です。わけは、3本の直線で囲まれた形だからです。 <p>4 全体交流で、考えを確かめ合う。(12分)</p> <p><プリントに書き込む></p> <ul style="list-style-type: none"> ・㊦は、四角形です。わけは、4本の直線で囲まれた形だからです。 ・㊧は、どちらでもない形です。わけは、1本の辺が直線ではないからです。 ・㊨は、四角形です。わけは、4本の直線で囲まれた形だからです。 ・㊩は、どちらでもない形です。わけは、直線で囲まれていないからです。 ・㊪は、どちらでもない形です。わけは、角が直線ではないからです。 ・㊫は、どちらでもない形です。わけは、5本の直線で囲まれているからです。 <p>5 本時の学習内容を確認し、まとめをする。(5分)</p> <p>まとめ 三角形や四角形のやくそく(学んだこと)をつかうと、わけをせつめいすることができる。</p> <p>・P.242の「ひらめきアイテム」に「学んだこと」を書き込む。</p>	
広げる 12分	<p>6 練習問題に取り組み、学習内容を定着させる。(8分)</p> <p>○定着の確かめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ロイロノート」で図形の仲間分けをし、わけを話す。 ・できた児童同士で交流し、その後、時間のある児童は、ぎふWEBラーニング。 <p>7 本時の学習を振り返る。(2分)</p> <p><自己評価力を身に付ける></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習がわかったかを自己評価する。(にこちゃんマーク) ・学習内容のふり返り「三角形、四角形、どちらでもない形のわけを説明できたか」よくできた(にこにこ) まあまあ(普通の顔) わからなかった(泣き顔) ・時間のある児童は、マークだけでなく、「なぜわかったか」を言葉で書く。 	
まとめる 5分		
確かめる 10分		

4 研究内容に関わって

<多治見市研究テーマ>
見方・考え方を働かせ、数学的に考える児童を育てる指導の在り方

重点1 単位時間における数学的な見方・考え方と数学的に考える児童を育てる数学的活動の明確化

- ・既習事項である三角形と四角形の定義を全体で確認し、問題を把握する。
- ・個人追求や少人数交流で自分の考えを表現し伝え合い、自分の考えを明確にする。
- ・「終末10分の定着時間」を位置付け、ICT活用等での児童も確実にできるようにし、「分かった」「できた」を実感できるようにする。
- ・練習問題ができた児童は、仲間と交流したり、ぎふWEBラーニングをしたりし、学び続けられるようにする。
- ・振り返りの場を位置付け、何が、どうして分かったかを明らかにし、自己評価力を身に付けられるようにする。

重点2 ICT機器を活用し、数学的に考える児童を見届ける視点を明らかにした指導改善

- ・個人追求では、ロイロノートの提出箱機能を用いて、提出状況から学習活動を見届ける。
- ・弁別ができなかったり、悩んだりしている児童に個別支援をする。